



ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン
アドリアン・エレート
バリトン

聴衆とプレスに高い人気を誇るオーストリア出身のバリトン。活動の足場とするウィーン国立歌劇場で、これまでに《セビリヤの理髪師》フィガロ、《ファウスト》ヴァレンティン、《ビリー・バッド》タイトルロール、《マノン》レスコー、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《こうもり》ファルケ博士、《ウェルテル》アルベール、《ラ・ボエーム》マルチェッロ、《カプリッチョ》オリヴィエなどを歌う。アリベルト・ライマン《メデア》の世界初演では、自身のために書かれたイヤソン役を歌った。

また、フェニーチェ歌劇場（ハルレキン）、ハンブルク州立歌劇場（ペレアス）、フランクフルト歌劇場（アデス《テンペスト》のプロスペロー）、東京・新国立劇場（グリエルモ、アイゼンシュタイン）、パリ・オペラ座（オリヴィエ）、ヒューストン・グランド・オペラ（ドン・ジョヴァンニ）、マエストランツァ劇場（ドン・フェルナンド）、マルセイユ市立歌劇場（《ローエングリン》伝令）にも出演。

ティーレマン指揮《ニュルンベルクのマイスタージンガー》のベックメッサーで大成功を収め、バイロイト音楽祭、チューリヒ、ケルン、ライプツィヒ、東京、アムステルダム、2019年ザルツブルク・イースター音楽祭でも同役を歌った。

今後はドレスデン州立歌劇場、東京・新国立劇場（ベックメッサー）、マドリッド・レアル劇場などにも出演予定。

オペラのキャリアと並行して演奏会でも大いに活躍しており、これまでにムーティとウィーン・フィル、ラトルとベルリン・フィル、アーノンクール、ルイーゼ、リリンク、ヘンゲルブロック、ヴィオッティなど名高い指揮者やオーケストラと共演。

リート歌手としても評価が高く、ウィーン楽友協会、ブルックナーハウス、ライディング・リスト・センターや多数の音楽祭でリサイタルを行っている。12年にGramolaレーベルでシューベルト《冬の旅》を録音。